

大町病院サポーターの会会報

№. 81

2021 年 1 月発行

大町病院サポーターの会

発行責任者降旗 剛

賀 正



新年のご挨拶

サポーターの会 会長 降旗 剛

新年あけましておめでとうございます。新春をご家族の皆様と迎えたこととお慶び申し上げます。

旧年中はサポーターの会の事業に対してご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございます。

昨年はコロナ禍の中 4 月には大北地区で最初の感染者が発生しました。当会の総会も書面決議という過去には経験のないスタートとなりました。また、計画事業である公開講演会や、医師・職員との懇談・交流会は残念ながら中止を余儀なくされました。病院周辺環境整備においては、5 月プランターへの花植え・草取り、8 月花壇の草取り、10 月庭木の剪定・ガーデニングは参加人数に制限をしておこなった活動となりました。

昨年の 12 月、信濃毎日新聞に（医療従事者の皆さん、心からありがとう。その思いを託したイルミネーションの明かりが、中信地方の各地でもみられている）と報道されました。

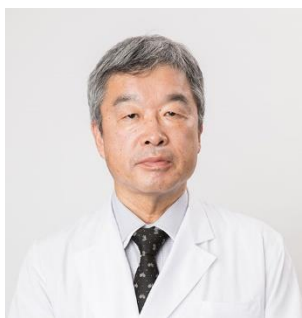
サポーターの会がセットしたイルミネーションは、今年も大勢の市民の皆さんにご協力をいただき病院駐車場にあるモミの木や階段に昨年の 2 倍、2 万個の LED 球を飾り付けができました。そして 12 月 2 日イルミネーションの点灯式には牛越市長さん、井上病院長さんをお迎えし、病院の先生、市民グループの皆さんによる楽器演奏により点灯式をより一層盛り上げていただきました。

コロナ禍の中今後の計画事業につきましては、状況の判断をしながら進めてまいります。

今、新型コロナウイルスの終息が見えない中、大町総合病院は感染症指定医療機関として、感染症患者の対応に当たっていますが対応に従事している関係者の皆さんは心身ともに大変と察しています。皆さんへの応援とはサポーターの会員の皆さんが感染しないことです、お互いが防止に努め、引き続きご支援をお願いいたします。

本年が、新型コロナウイルス感染症の収束に向けて大きく前進する年になること、そして大町総合病院井上院長をはじめとすると職員の皆さま、関係者の皆さま、サポーターの会員の皆さまがよい一年となりますことを心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

井上善博事業管理者・病院長ご挨拶



皆さん明けまして
おめでとうございます。
サポーターの会に
は日頃から大変お世
話になっております。
改めました感謝とお
礼を申し上げます。

今年の年末年始は、寒波に襲われ大雪になるのではないかと言う予想でしたが、皆さんの住んでおられるところはどうかだったのでしょうか。私は安曇野市穂高に住んでおりますが、大したことはありませんでした。今回の年末年始は通常の救急外来に加え、発熱外来も併設しました。年末に国会議員の羽田雄一郎さんが急死されたこともあり、多くの方が訪れました。年末年始、仕事に就かれていた職員の方々、大変お疲れさまでした。

さて、今年は大町病院にとってどんな年になるでしょうか。新型コロナウイルス感染症は、昨年初めに発生し、1年にわたり私たちの社会生活に大きな影響を与えました。11月頃からはコロナ陽性患者が急激に増加し、変異株も発見されています。ワクチンの効果がどれだけ効くのかまだわかりませんが、今年も新型コロナウイルスに一喜一憂する1年となりそうです。

当院は第2種感染症指定医療機関に指定されていますが、全国には351施設あり、病床は1,758床あります。国、自治体、公的（日赤、厚生連、済生会など）が9割を担っており民間は1割程度です。

長野県には 14 の感染症指定医療機関がありますが、民間の病院はありません。その公立病院に対し、5 年ほど前、総務省は、公立、公的病院は経営効率が悪いので改革プランを作成するよう求めました。特に公立病院、つまり自治体病院は職員がたくさん居て支出が多いにも関わらず、収益が少ないので自

病院にブローカー贈る

サポーターの会は昨秋、病院花壇、駐車場内の落ち葉を掃除するためのブロアーを購入し、病院に贈りました。10月7日、降旗 剛会長より川上晴夫事務長にブロアーとガソリントankをセットして手渡ししました。特に濡れた桜など広葉樹の葉は片付けが大変です。この機械でかなりのスピードアップが図れます。

身の地域における存在意義をよく考え、他の病院と統合するかネットワーク化するか、経営形態を変えるようにしなさいということです。

ところが、今回のコロナ騒ぎで、国は再編統合したい自治体病院に入院患者を受け入れるよう指示することになったため、再編統合を強く言えなくなり、昨年 10 月の通達では現行ガイドラインの改定等を含む同ガイドラインの取扱いについては、その時期も含めて改めて示すこととする、つまり一時停止にすることになりました。

しかし、良く考えてみれば、前年度比で4月から11月で医業収益が1億弱の減、入院患者は10%、外来患者は8%の減が意味するところは、これらの数字は、この病院の数年先の姿を垣間見せているのかもしれない。若しくは時間軸を一挙に数年進めたのかもしれない。

一旦身についた手洗い・マスクの衛生行動は、コロナ以外の感染症予防になり、コロナ以外の肺炎を減少させるでしょう。現に、今年は感染症の患者は激減しました。受診抑制で病院へ行かなくても市販薬で治ってしまうことが分ければ病院を受診する患者は減ります。そして高齢化による人口の自然減が加わりますから、これから受診患者が増える可能性は極めて低いでしょう。ポストコロナの時代は、病院の再編、ネットワーク化、経営形態の見直しが、むしろ一挙に急速に進む可能性があります。

来年度は経営健全化計画の最終年です。計画を実践しながら、来年度受審予定の病院機能評価への準備をきっかけに、当院が目指す医療を確認し、この病院の将来像を描いてみる必要があります。人材育成研修等様々な研修がその手助けとなることを期待しています。今年も昨年以上に頑張りますように、本年もよろしくお願いします。



特別寄稿

サポーターの会から新型コロナウイルスと闘っている状況の報告を依頼したところ、忙しいところ時間を割いていただき、家族をも顧みずストレスとも闘いながら心を決めて仕事に当たる医療現場の献身的状況を報告いただきました。心から感謝するとともに、サポーターの会として微力ではありますが支援、サポートしていきたいと考えています。

新型コロナの医療現場から

市立大町総合病院 内科 新津義文

ダイヤモンドプリンセス号から始まる

当院が新型コロナウイルス感染症と向き合った、最初の出来事は、2020年2月上旬、保健所から「ダイヤモンドプリンセス号」の感染者受け入れの打診があったことです。「こんな山の中の田舎の病院にも打診があるのか、厚労省は大変困っているのだな。」と思いました。協議した結果、感染症病棟を有する病院の当然の責務として「受け入れる」と回答しました。

それまで、感染症病棟は、2009年7月に当院に初めて新型インフルエンザ患者を受け入れたとき以来、ほとんど使用されていませんでした。すぐに、感染症病棟を清掃し、入院患者さんを受け入れられるようにベット、机、TVなどを用意しました。しかし、高速道路が通っていない地域にある当院には、

「あまりにも遠すぎて、行くことができません。」と返答がありました。



北沢学さんから送られた葉牡丹

対策準備が一気にすすむ

4月に大北地域で陽性者が初めて出ました。県内で10人目だったので、結構早い段階で出たことになります。その時から当院でも感染対策が一気に進みました。さらに、感染症病棟には、昭和時代に購入した、今ではほとんど使用されない感染症に対するグッズが多々あり、物置のような状態でした。そ

の感染症病棟を、通常の使用に耐えるように整備し、感染症の患者さんの受け入れの準備をしました。

5月から7月までは静かな状態でした。こんな、高速道路も新幹線もない地域には新型コロナウイルスはもう来ないのではないか、という思いがありました。

オンコールがかかり病院へ

ところが、8月上旬になって、突然、大町市で多くの感染者がでました。8月8日の午後2時頃、長野市で友人に会う予定であった時に、突然病院から電話があり、「PCR検査で陽性となった人が出まし

た」と連絡がありました。「軽症なのでそんなに慌てて病院に来なくても良いですが、夕方には来てくださいね」と言われたので、友人と別れて病院に戻ってきました。その時にはさらに2人の陽性者がいて

合計3人になっており、病院は、というより感染管理室は大騒ぎの状態でした。それから、8月14日まで次々と患者さんが発生しました。しかし、この小さな町では、東京のような大都市とは違い、保健所のクラスター班が追跡調査を行うことができて、

濃厚接触者の行動自粛要請と、陽性者を同定することで、発生から僅か2週間で収束しました。上田や長野市の感染者の中には、どこで感染したのかわからないと言う人かなりいたのですが、それとは違って、全員感染元がわかっていました。

潜伏期の発症する前の段階で、他の人に感染

この経験で多くの知見を得ることができました。潜伏期の発症する前の段階で、他の人に感染させているケースがほとんどでした。そのため症状の全く無い人でも、濃厚接触歴のある人、それに相当する人には注意をする必要があると認識しました。やはり、事前の問診が大切です。また、濃厚接触者に検査を行い、PCR検査が陽性であっても、全く症状が無い人が何人もいました。比較的若い人たちは風邪程度の軽症であることがほとんどでした。味覚、嗅覚障害を主訴とする人も結構いました。中には「風

邪をひいたと思ったが、味覚や嗅覚に異常があったので、普通の風邪とは違う、もしやと思い受診しました」という人もいました。当初は全例に胸部CTを行いました。40歳以下の人には肺炎像を呈する人はいなかった。若い人にはCTをとることはやめました。それに対して、40代以上では、自覚症状が乏しい方でも、胸部CTで、巷で言われている、COVID-19に典型的なスリガラス状陰影を認めることが多く、60%以上に肺炎像が認められました。

発病から7～10日後に悪化することがある 治療法は格段に進歩している

さらに、ほとんどが軽症であったのですが、巷でこれまた言われている、発病から7～10日後に悪化することがある、との報告例が本当にあるのだ、という症例も数例、経験させられました。これらの患者さん達を経験してみて、やはり、通常の風邪のウイルスとはちょっと違うなど、思われました。

治療が必要な場合には、デキサメタゾン使用し、D-dimerが軽度上昇している人にはカモスタットを、中等度以上上昇している人にはヘパリンの使用を考慮するなど、試行錯誤で治療にあたりました。

私が、2020年2月下旬に、信州大学病院で行われたコロナウイルスに対する検討会に出席した際には、主に「カレトラ」という薬を使用していました。

「カレトラ」という薬を私は初めて聞いたので、日本の薬で「影虎(カゲトラ)」をもじった薬か？など一瞬思いましたが、調べたらAIDSに対する古い薬でした。その後この薬は無効であることが判明しています。わずか、1年も経過しないうちに治療法は格段に進歩してるようです。

職業倫理意識の高さには敬服、逃げることなく、献身的に看護

退院後の後遺症も報告されています。当院でも何例かは、咳、咽頭痛、呼吸が苦しい状態が続くなどの症状があり、退院後も受診や電話相談をさせて頂きました。精神的な問題もあったと思われます。

当院の看護師達は、COVID-19の患者さん達に対して、逃げることなく、献身的に看護をしています。患者が突然呼吸困難となった時にも、あとで「実は怖かったんです。」と言われましたが、酸素吸入を開始し、心電図モニターとパルスオキシメーターを

装着してバイタルを把握するなど、看護師として適切に対応していました。当院の看護師達の職業倫理意識の高さには敬服します。

現在、流行の第3波が訪れており、長野県でもあちこちで感染者がでています。私たち医療者は、今後もこのウイルスと長く付き合っていかなければいけないようです。なんとか、乗り切る必要があると思う今日この頃です。

【※ 中見出しは編集部でつけました】。

新型コロナ自費検査費用の一部を大町市が助成

大町病院で可能となった無症状者を対象とする新型コロナウイルス自費検査で検査にかかる費用の一部を助成する事業を始めます。検査にかかる3万円の内、市民1人に付き1万円を、65歳以上の人については2万円を助成します。後日精算方式で病院に3万円を払い、領収書を市中央保健センターに提出すれば銀行口座に振り込まれます。なお、一人一回に限られます。

病院に電話相談窓口を開設

新型コロナウイルス感染拡大が続く中、熱、咳などの症状がでて新型コロナウイルスの疑いがある場合電話相談は現在かかりつけ医、大町保健所に相談することとなっています。新たに大町病院も加わり、電話相談窓口を開設しました。病院の電話は0261-22-0415で、相談受付は平日午前10時半から正午、午後3時から4時半まで。土日祝日は午前10時から11時、午後3時から4時まで。

大町病院、万全な検査・診療体制をしく



市立大町総合病院は、感染症指定病院に位置付けられ、早い段階からPCR検査体制を整え迅速に対応し、感染患者の受け入れ、治療にあたってきました。6月には、病院敷地内にドライブスルー方式の外来・検査センターを開設し、病棟とは完全隔離し感染防止対策をしてきました。更に現在、ランプ法などの検査方法も活用して検査・診療体制を強化しています。また院内感染防止のため、外来者との接触がない

ようにして対応をするとともに、病院スタッフの防護、健康管理も万全を期しています。

八坂、美麻診療所でも、冬のインフルエンザの流行に備え、発熱した患者に対応するため、来院者の入り口や動線を分離するなど、体制整備を進めています。

応援しています！職員の皆さんがんばってください

新型コロナウイルスの感染が拡大し、緊急事態宣言が再発動される中、全職員が一丸となって懸命に患者に寄り添い治療にあたっている病院職員

全員に気持ちばかりのプレゼントを贈ることを第4回幹事会で決めました。

病院会計、計画の着実な推進と職員の協力により改善

令和元年度の病院事業会計は、平成 30 年度に策定された病院経営健全化計画に基づき、医師や看護師はじめ職員の皆さんが一丸となって、継続的な経営改善に取り組まれました。病院の規模適正化や診療報酬の向上により医業収益で増収が図られ、また、医業費用でも、あらゆる経費の節減とともに全職員の協力のもと健全化計画にもとづき給与費の削減が継続され、この結果、経常収支では 2 億 7,000 万円の利益が計上されました。市民の皆さんからも、病院職員の努力に感謝の言葉が寄せられています。



本年 4 月には、専門医 2 人、信州大学医学部との連携により総合診療科に専攻医 2 人が加わり、常勤医師は 24 人に増え、体制が充実してきました。本年度は、ウイルス感染症への対応など、困難な医療環境の中、地域医療の拠点として頑張っており、引き続き、過年度債務の解消を含め、継続的な取組みが期待されます。

大町病院の令和 2 年度上半期は収入減 新型コロナで受診控え

12 月 2 日開かれた市議会全員協議会で、4 月から 9 月までの上半期の経営状況は、医業収入が前年度比 8,880 万円減少したことを報告されました。

上半期の医業収益は前年度対比 5,966 万円減の 19 億 3,020 万 9,000 円となり、支出では新型コロナ対策でスタッフの増員、フェイスシールドなど感染防止対策材料の増加などコロナ対策などで医業費はかさみ前年度対比 2,920 万 3000 円の増となった。純損益で見ると前年度比 1 億 1,657 万円の減益となりましたが、1 億 602 万円の利益を確保できています。今後見込まれる国、県のコロナ対策助成が上半期には反映されていないことや、県内自治体病院と比較して収入の減少幅が少ないことから、大町病院のコロナの影響は最小限に抑えられていると見ています。

第 4 回幹事会報告

1 月 7 日、市総合福祉センターにおいて第 4 回幹事会が 17 人出席のもと開催されました。

協議では、2 月 7 日、爺ガ岳スキー場開催予定で計画を進めていた、スキー交流会が新型コロナウイルス感染の急拡大のため中止することが決まりました。

スキー交流会は中止に

またサポーターの会の運営の見直しに向けて協議が行われ引き続き検討することが確認されました。新型コロナ患者受入で献身的に奮闘されている全病院職員への差し入れについても協議されました。また会費未納の方への対応も協議されました。

納入ありがとうございました

令和 2 年 12 月 29 日現在(順不同、敬称略)

個人会費納入者

川上佐貴子 宮崎栄介 真島康 島田元実 渡辺逸雄 宮下敬一 鈴木幸佳 平林千恵 大竹真千子

個人新規加入者 佐藤千枝子

個人寄付金 宮下敬一

みなさんありがとうございました。未納の方は郵便振替用紙で納付ください。